

木村賞第二回授賞報告（2013年度）

遠藤 薫*

横断型基幹科学技術研究団体連合（以下横幹連合）は、平成25年12月21、22日に開催された第5回横幹連合コンファレンスでの発表論文に対して、木村賞の選考を行い、2件の論文に第二回木村賞を授賞することとした。本年度の具体的な選考手順を以下に示す（木村賞運営内規に基づく）。

- (1) 審査委員会の設置（2013年8月20日理事会）
- (2) 会員学会ならびにコンファレンス参加者への木村賞設置のお知らせ（2013年8月）
- (3) コンファレンス予稿原稿に基づく事前一次審査（2013年10月4日～11月20日）：審査対象論文139件より20件の一次審査通過論文を選考
- (4) 事前二次審査（2013年12月4日～12月16日）：一次審査通過論文20件より7件の二次審査通過論文を選考
- (5) 二次審査選考論文のコンファレンスにおける発表時審査（2013年12月21、22日）：7件の候補論文の評点順位付け
- (6) 審査委員会で2名の候補者を選考し理事会に推薦（2014年1月24日）
- (7) 理事会において平成24年度木村賞受賞者2名を選考（2014年2月27日）

2013年度の木村賞受賞者2名は以下の通りである。なお、授賞式は2014年4月21日に開催される横幹連合総会において行う予定である。また、総会においてお二人からは受賞論文について発表して頂く予定である。

*木村賞審査委員会委員長（横幹連合副会長）・学習院大学法学部

2013年度木村賞受賞者、対象論文ならびに選考理由

受賞者：大倉典子（芝浦工業大学）
対象論文：大倉典子「感性価値としての「かわいい」」
選考理由：

本論文は、「横幹性」の面では、これまで商品価値は機能、信頼性、価格のみで評価されていたのに対し、感性価値（特にかわいさ）が重要であることを、工学的に明らかにしたという点で大いに意義がある。従来の縦割り型ディシプリンを超えて、文化論を工学的アプローチへと展開させた点で、横幹論文に相応しいといえる。



また、「有用性」の面では、かわいさを形、色に加えて「質感」「触感」について検討したものであり今後の製品開発に有用な指標を提供したといえる。

さらに「将来性」の面では、今後、これらの感性的評価軸が、世代や国の違いなどによってどのように異なるかを検討するなど、様々な発展が期待できる。

以上の理由により、木村賞審査委員会は、本論文を2013年度の木村賞に選考する。

受賞者：鈴木和幸（電気通信大学）
対象論文：鈴木和幸「リスクモードに着目した分野横断的リスク情報システム科学」
選考理由：

本論文は、「横幹性」の面では、各種分野に横断的に適用できるシステム科学的アプローチである、という点で大いに意義がある。これにより、従来の縦割り型ディシプリンを超えて、今日の社会における喫緊の課題であるリスクマネジメントに関して、



多様な分野に適応可能な基盤的枠組みを提供しえる点で、横幹論文に相応しいといえる。

また、「有用性」の面では、各分野のリスクモードを深掘することにより、社会システムのリスクマネジメントの一方法として活用し得ると期待される。

さらに「将来性」の面では、本研究の成果には具体性があり、実装が容易であることから、様々な方向への発展が期待できる。

以上の理由により、木村賞審査委員会は、本論文を2013年度の木村賞に選考する。

選考理由にも記述されているとおり、選考された2件の論文は、これまで十分な研究がなされてこなかった文理横断的な領域に対して、横幹型の基幹技術の核となるモデリング(モデル同定)や最適化手法を導入し新たな展開を図ったものである。さらに、両研究は「リスク」「かわいい」といった、現代社会で注目を集めているものの、感性的であいまいであり、定量化が困難な対象の解析に挑戦し、成果をあげている。これらは、横断型基幹科学技術の発展に寄与する優れた研究であり、第二回の木村賞受賞に相応しい論文であると高く評価する。今後の横幹連合コンファレンス/シンポジウムの展開にまた新たな財産が加えられたことを喜ぶたい。